

今年、灯台150周年です

現在、全国にある灯台の始まりは、明治の初めに導入された洋式灯台にさかのぼります。

江戸末期、英・米・仏・蘭の4か国が、関門海峡を舞台に長州藩と戦った下関戦争の賠償の一環として、開港した各港への灯台の設置を約束させ、1番目に建設された灯台が、神奈川県横須賀市にある観音埼灯台です。

明治元年11月1日に、この観音埼灯台の建設を着手しており、この年を基点として、平成30年は、灯台の近代化150周年にあたります。

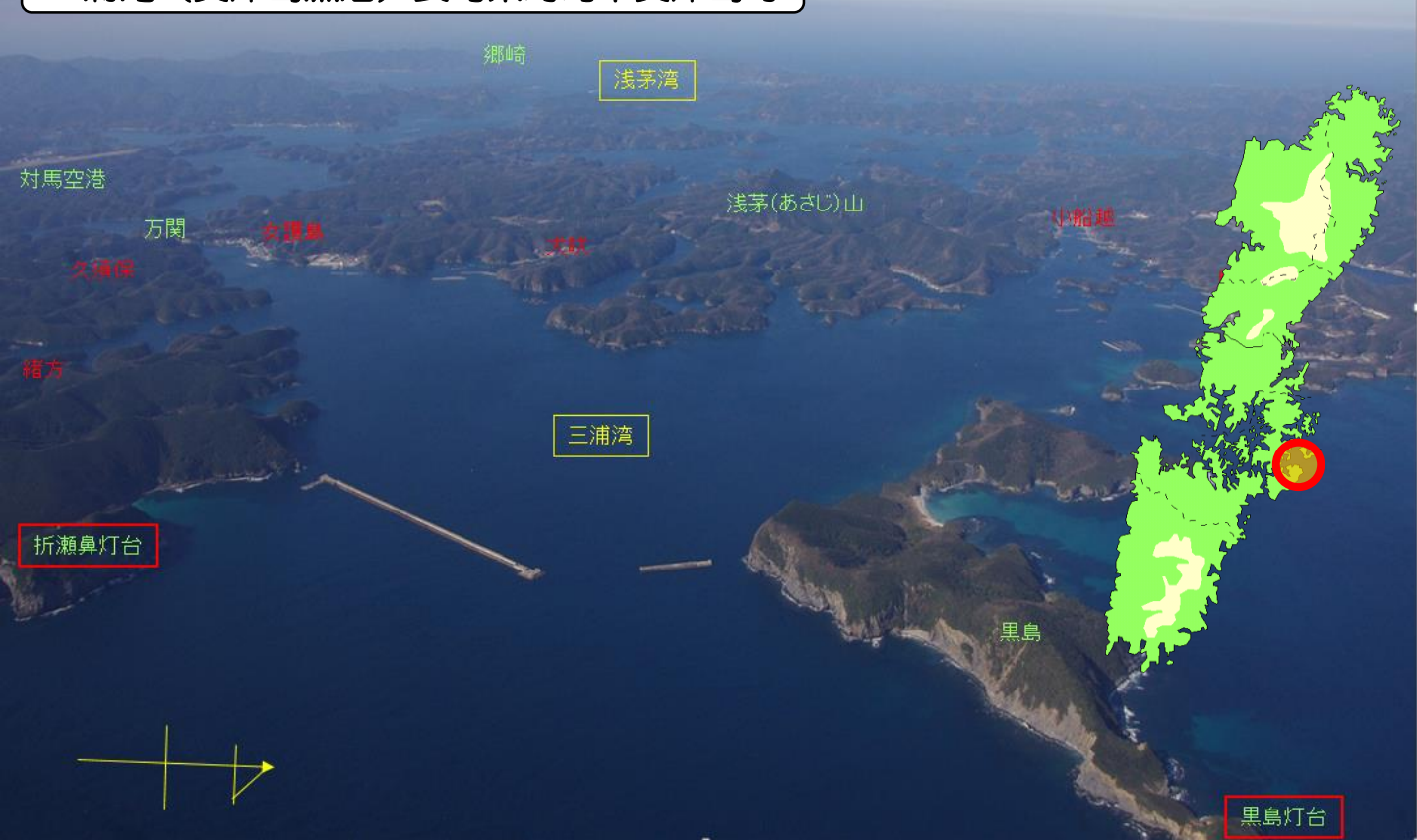
対馬の主な灯台

灯台150周年にあたり、対馬に設置されている主な灯台を毎月順番にご紹介します。

その6 対馬黒島灯台 折瀬鼻灯台

対馬黒島灯台及び折瀬鼻灯台は、三浦湾の入口に位置し、対馬海峡東水道から万関瀬戸、浅茅湾を経て対馬海峡西水道に抜けるため、古来から航路の要衝であり、重要な役割を果たしている灯台です。

三浦湾（美津島漁港）長崎県対馬市美津島町



対馬黒島灯台

対馬黒島灯台は、標高約130mの黒島の山頂に設置され、昭和26年11月に初点灯しました。当時から無人の灯台であり、美津島町鴨居瀬に居を構えていた対馬黒島航路標識事務所は、昭和35年4月に神埼航路標識事務所とともに対馬（厳原）海上保安部に集約されました。



折瀬鼻灯台から黒島を望む



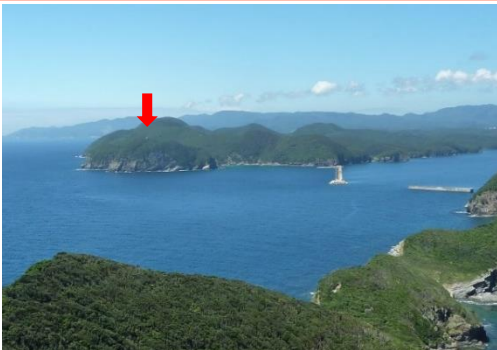
対馬黒島灯台
初点
昭和二十六年十一月



折瀬鼻灯台

折瀬鼻灯台は、標高約110mの位置に設置され、昭和53年3月に初点灯しました。同灯台は、対馬黒島灯台とともに三浦湾の入口を示す重要な灯台です。

灯台下には、明治及び昭和に造られた折瀬ヶ鼻砲台跡があります。



対馬黒島灯台から折瀬鼻を望む



折瀬鼻灯台
初点 昭和53年3月

